

大分教育事務所訪問 36

大分市立下郡小学校から学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「夢に向かって、学び合い、認め合い、鍛え合い、主体的に生きる子ども」を育成するために、「学び部」「こころ部」「からだ部」の3部会を組織し、それぞれの目標を「よく考えて学びを深める子ども(かしこい子)」「自分の行動を振り返り、周りを思いやる子ども(やさしい子)」「めあてをもち、進んで運動や健康増進に取り組む子ども(たくましい子)」として組織的に取り組んでいます。

注目すべきは、これからの3つの重点目標を、学年毎に具体的な目標を設定し、それをそれぞれの目標管理シートの評価項目に定めることで、3部会という【縦軸】と、学年部という【横軸】で取り組んでいることです。また、組織が複雑となり細分化することを補うために、校務分掌の年間計画や、年間単元計画(教育課程)を色分けする等「見える化」することで、進行管理を適切に行っています。さらに、学校運営協議会とも目標を共有し、それぞれ目標値を設定することで、目標協働達成を目指しています。同時に、学年部定時退庁日など工夫のある働き方改革にも取り組み、教職員の意識改革も進んでいます。

今後は、「具体的な取組」にあるそれぞれの取組項目が、めざす子ども像にあるどの「資質・能力(3本柱)」を育てるのかを明確にすることで、教職員や保護者・地域のベクトルが揃いやすくなると思います。そのことで、方法(手段)は担当者や学校運営協議会等に任せることができ、それぞれの当事者意識がより高まることが期待できます。

授業から学ぶ

どの教室からも前向きに学びに向かう空気を感じました。特に2年生では「質問」を中心とした場面を参観しましたが、質問と意見を区別したり、質問の意図を感じさせることは、これから特に必要な力だと感じました。

また、習熟の程度に応じた少人数指導においては、毎回単元毎にレディネステストを行っています。このことは、子ども達にも自己決定の判断をさせることにもつながると思いました。

今後は、終末の「振り返り」で、子ども達がどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「こどもを主語」とすることで、「ねらい」との連動や、評価規準がより明確になります。そのような、具体的な実践を日常的に行うことで授業力がより向上すると思います。



NO.172 2021年7月 大分市立下郡小学校

かしこい子

安心して挙手ができるのは、共に学ぶ仲間がいるから。みんなが、肯定的に聞いてくれるから。



NO.171 2021年7月 大分市立下郡小学校

たくましい子

自分で考えたことを表現する。そして、相手の意見も聞くことで、共に考えの幅が広がる。



NO.173 2021年7月 大分市立下郡小学校

やさしい子

友達の質問に真摯に応える。それは、共に相手の思いに立った行動ができるから。